



今、生き生きと 東川中学校女子バレーボール部

7月11、12の両日、名寄市で開かれた中体連上川管内代表決定戦で、1回戦から対戦相手をすべてストレートで破ってみごと優勝。8月1日から3日間帯広開催の全道大会にコマを進めました。このページを見ている皆さんは、既にその結果を知ることができていますね。この夏、全国大会への切符は果たして手中にできたでしょうか？

「ボールをしっかりと拾え！」。監督の叱咤(しった)が飛びます。中体連全道大会に向けて、連日練習の音が体育館に響きます。「レシーブが良い時と悪い時がある。まだ不安定」と守備力強化に余念がありません。

攻撃力が魅力のチームです。しかし「もっと強いチームはいっぱいいる」と全員口をそろえます。帯広勢などの強豪に油断はできません。

3年前、最強と評判が高かった先輩チームは、中体連(日本中学校体育連盟)バレーボール女子全



地区対抗中学生バレーボール優秀選手選抜大会で優勝した旭川選抜チームの3人(左から皆木さん、矢ノ目さん、菊地さん、今年3月、芦別市総合体育館)

道大会でベスト8まで進む成果を残しました。

他チームから注目されるようになったのは、今年3月、旭川選抜

チームとして出場した「地区対抗第23回北海道中学生バレーボール優秀選手選抜大会」で、帯広選抜を破って優勝してから。当時2年生だった皆木さん、矢ノ目さん、菊地さんの東中トリオの中核メンバーが圧倒的な攻撃力を見せたのです。

◇ 今年のチームは今、3年生5人が中心になって、先輩を超えようと力を養っています。全道大会、そしてその先に見えているのは全国大会への扉。

皆木さんは、身長175センチメートルの恵まれた体格から高さや角度のある重たいスパイクを決める頼もしいエース。

窪田さんは相手ブロックにボールを当ててアウトを誘うポイントゲッター。声を出してチームを盛り上げます。2番目の長身、身長167センチメートルの菊地さんは、上背を生かしたブロック力と正確なボールトスが魅力のセッター。

東川中学校バレーボール部(佃健一監督)

女子バレーボール部の部員は14人。3年生5人、2年生2人、1年生7人。とくに3年生5人は、小学3年生からバレーボール少年団で育て呼吸もピッタリ。6年生の時にも全道出場しています。今年のチームを支えるのは、キャプテンの皆木のどかさん、窪田美月さん、菊地真沙希さん、塚原真由さん、矢ノ目あみさんの3年生5人。中体連の上川管内代表決定戦バレーボール大会(7月11・12日、名寄市)では、土別中学校と決勝戦で対戦。2セット連取で圧倒して優勝し、1回戦敗退した昨年の悔しさを晴らしました。来年の全道大会は旭川開催。地元開催の大会出場を目指して、1、2年生の後輩の中から、藤子良美さん(2年)、庄内三央さん(1年)、市村ともかさん(同)の3人が早くもレギュラー入りし、次代の選手が育っています。

塚原さんは、レシーブ力の確かさとして右オープンからのアタック力が持ち味。一見おっとりとしている矢ノ目さんは、高いジャンプ力と、どこからでもアタックを打てる安定感が持ち味。旭川選抜チームで活躍した3人のうち、皆木さん、菊地さんは、今月札幌で行われる全道選抜チーム選考会に臨みます。選考条件は、身長165センチメートル以上。この条件をクリアできた2人は、果たして全道選抜チームに入ることができるか。その活躍に期待が膨らみます。



高い打点と強いアタックが魅力の皆木選手(中体連上川管内代表決定戦大会の決勝戦で、左後方は監督の佃健一先生=7月12日、名寄市スポーツセンター)